

- 1 単元（題材）名 第5章 開国と近代日本の歩み
1 節 欧米の進出と日本の開国 5. 開国と不平等条約

2. 単元観 → 実際のレポートに記載する必要はありません。

本単元は、欧米諸国における市民革命や産業革命による近代化とアジア進出を背景に、我が国が開国に至ったことを理解させる単元である。

近代革命は、平民層が重い税金によって苦しんでおり、この苦しみが「革命」という形で爆発し、絶対王政下の王権に向けられた。革命により、王権が廃止され、市民中心の社会が生まれた。また、同じ時期にイギリスを中心に産業革命が始まった。技術革新による大量生産、大量消費は資本家を生んだ。資本家は安い原料の確保や、市場の開拓のために中国、インドなどを標的にした。その過程の中でペリーの日本来航を経て開国へと至り、尊皇攘夷運動、倒幕へとつながっていった。

本単元は、同時期の世界の歴史の流れと日本の歴史の流れを学習することで、世界と日本の関係を「点」としてとらえるのではなく、「線」としてつなげて理解し、思考を深めさせる単元である。欧米諸国の近代化のきっかけのように、日本が開国したこと、攘夷や倒幕へと至った背景にも、身分の低い浪士や民衆の働きが影響していたことを理解させたい。

3. 表現力を高めるための学習活動

- ① 個人の考えを、グループで交流し、話し合うことで考えに深まりをもたせる。
- ② グループでの発表と個人での発表の場をもうけることで、表現力を育成する。
- ③ グループでの交流を通して、様々な表現を習得し、人に伝えられる文章表現力を育成する。

4. 教具の活用について

- ① 全体への指導の際には、ICT 機材（パソコン、タブレット）などを使い視覚的なイメージをもたせる。
- ② 個人活動、グループ活動のときに、開国時の日本の平民層の経済状況、輸出入などの資料を配布する。
- ③ その他、教科書・資料集を参考にさせる。

5. 単元の目標

単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。 ・明治新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことを理解させる。 			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。	近代の歴史的事象から課題を見だし、近代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現できる。	年表や歴史地図、映像など近世に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近代の特色などを、世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につけている。

6. 単元の指導計画と評価基準

	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	1 近代革命の時代 (p. 144~147) ヨーロッパの動向 イギリスの革命 アメリカ合衆国の独立 啓蒙思想 フランスの絶対王政 フランス革命	・欧米諸国の近代化への成立の様子に興味を持ち、意欲的に追求している。			・欧米諸国が近代革命を経て近代国家を形成していった過程を理解し、その知識を身につけている。
2	2 産業革命と19世紀のヨーロッパ (p. 148~149) 産業革命 資本主義と社会主義 19世紀のイギリスとドイツ		・産業革命を経て、産業や社会の仕組みが大きく変化したことを多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		・革命の時代を経て、近代国家を確立する動きがヨーロッパ諸国に広がっていく過程を理解し、その知識を身につけている。
3	3 ロシアとアメリカの発展 (p. 150~151) ロシアの拡大 アメリカ合衆国の成長		・アメリカ合衆国成長の一方で、先住民の強制移住や黒人への人種差別などの問題があったことを多面的・多角的に考察し、適切に表現している。		・ロシアとアメリカ合衆国が領土を拡大し、発展していく過程を理解し、その知識を身につけている。
4	4 ヨーロッパのアジア侵略 (p. 152~153) ヨーロッパとアジアの力関係 アヘン戦争と中国の半植民地化 インドの植民地化		・ヨーロッパ諸国のアジア侵略について、その理由や背景を考察し、表現している。	・ヨーロッパのアジア侵略に対するアジア諸国の対応を、グラフや地図から読み取り、年表にまとめている。	
5 本時	5 開国と不平等条約 (p. 154~155) ペリーの来航 不平等な通商条約		・ペリー来航から日米修好通商条約の締結に至る過程を調べ、適切に表現している。		・条約の内容や不平等な点を理解し、その知識を身につけている。

7. 本時の授業 「 5 開国と不平等条約 」

(1) 本時の目標

- ① 開国の際の条約の不平等な点を理解することができる。
- ② 開国が庶民に与えた影響について、資料から読み取ることができる。

(2) 本時の評価

- ①B 規準: 条約の内容や不平等な点を理解し、その知識を身につけている。

〈指導の手立て〉

机間指導、ワークシートの回収時に適宜指導するとともに、小テストを行う

- ②B 規準: ペリー来航から日米修好通商条約の締結に至る過程を調べ、適切に表現している。

〈指導の手立て〉

机間指導、ワークシートの回収時に適宜指導するとともに、小テストを行う

(3) 本時の展開

段階	学 習 活 動 ○=予想される生徒の答え	教師の指導・支援	学習評価
導入 5分	1 日米和親条約、日米修好通商条約により開国し、貿易をした事実を確認する	1 前時の復習 ・日米和親条約、日米修好通商条約により開国したことを発表させて確認させる ※パソコン画像をTVで写す	研究とのかわり4◎
展開 35分	2 本時の課題を知る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">開国は、庶民の生活にどのような影響を与えたのだろうか？</div> 3 貿易を開始したことにより、庶民の生活にどのような影響を与えたかを予想し、学習シートに記入する。 ○いろんな文化が入ってきた ○経済が豊かになった ○苦しくなった 4 グループ学習を行う。 ・グループのリーダーなどを決める ・リーダーは資料と模造紙を取りに来る 5 グループの答えを黒板に貼り、発表する ○ものの値段が上がった。 ○生活が苦しくなった。 6 まとめを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">開国によって、金貨の流出や生糸などの品不足、ものの値段が上がり、庶民の生活は苦しくなった。</div>	2 課題を提示する 3 貿易を開始したことにより、庶民の生活にどのような影響があったか予想させる。 ・学習シートに予想を書かせる 4 グループをつくり、課題について考えさせる。 ・グループのリーダー（司会）、答えを書く、発表する生徒を決めさせる ・資料と模造紙を配布する ・メモ取らせながら話し合いを進めさせる。 5 それぞれの班のまとめをカテゴリー分けして、代表者に発表させるその際、キーワードをおさえたり、補足説明する。 6 まとめを提示する。	研究とのかわり4◎ 評価① 評価② 研究とのかわり3、4◎ 評価② 研究とのかわり4◎
終末 10分	7 振り返りとして映像を視聴し、本時の学習をふり返るとともに、開国によって、武士から庶民まで幅広い階層から攘夷運動が起きたことを知る。 8 ふり返しシートを書く 9 今日の授業でわかったことを発表する。	7 視聴覚教材を見せる。（約3分） 8 ふり返しシートを配布し書かせる。時間があれば、次時の予想も書かせる。 9 任意に指名した生徒に発表させる	研究とのかわり4◎ 研究とのかわり3◎ 評価①